

多層化する現代のガバナンス：現代ガバナンスの3特徴

総合政策学部 岡部光明

ガバナンスとは、何らかの権限あるいは合意によって、一つの秩序ないしシステム作動の仕組みが作り出されている状態である。

従来は、各国家が絶対的かつ排他的な権力をもって一国内に一つの秩序を作り出していた。金融の分野では、従来、一国の監督当局が命令と規制をもって円滑な金融取引のための仕組みを確保していた。しかし、取引のグローバル化は新しい事態を生んでいる。金融システム安全性の核心をなす自己資本比率に関する規制は、いま民間銀行、その国内団体、国、そして国際機関のインターアクションによって新しい国際的な基準に置き換えられようとしている。

その基準（バーゼル合意）は、単に各国家が一方向的な命令と規制を行うことを内容とするものではない。またそれは義務という性格を持つのではなくむしろそれを遵守することが有利になるような新しい発想に基づくルールである。そしてそれは地球を一つの地域とみて全世界に適用される新しい統一的な基準でもある。いま生み出されようとしているそのルールは、まもなく世界の金融秩序を支配するはずである。

グローバル化は国の権限を分解・拡散させるとともに、権限主体を多層化させ、また従来のプレーヤーもルール構築のプロセスに参加させる。権限保持主体の多様化、権限行使方法の変化、権限内容の変化、この3点が現代のガバナンスの特徴である。

（「Keio SFC Review」第11号、2001年11月）